

まほろば秦野通信

平成27年10月7日

秦野市役所市長室広報課

タイトル	水道の安定供給を次世代にも 「水道料金のあり方」について市水道審議会から市長への答申	
When (いつ)	10月13日(火曜日)午前10時半	
Where (どこで)	市役所3階 市長応接室	
Who (だれが)	秦野市水道審議会会長、副会長	
What (なにを)	「はだの水道ビジョン」に掲げた将来像である「おいしい秦野の水をいつまでも」の実現に欠かせない経営基盤の強化、安定と計画的な施設整備のため、水道料金のあり方について、本年7月31日に市長より秦野市水道審議会へ別紙のとおり諮問を行いました。	
How (どのように)		昨年度から合わせて9回の審議会にわたり、水道施設の現状調査や水道事業の経営内容を精査し、市長からの諮問に対して審議してきた「水道料金のあり方」について、秦野市水道審議会の松下会長と柳川副会長から市長へ答申を行うものです。
Why (なぜ)		
過去の実績	5年前の平成22年10月15日に、水道料金のあり方について、水道審議会から答申書が市長に提出されました。	
今後の取り組み	水道料金のあり方について、答申内容を尊重した上で、検討を行います。	
ホームページURL	http://www.city.hadano.kanagawa.jp/suido/machi/suido/shingikai.html	
問い合わせ	水道局水道業務課庶務担当：西澤 冠 電話0463(83)2111	

まほろば秦野通信

別紙

7月31日諮問理由及び内容

本市の水道事業は、明治23年に給水を始めた「曾屋区水道」という全国で3番目の近代水道として、先人の安全な水に対する情熱から生まれ、昭和40年から50年代にかけて、各地域の小規模な水道を統合しながら、これまで4次にわたる拡張事業により、市内の水需要に応じてきました。しかし、現下の水道事業経営は、大変厳しい状況となっています。

現行水道料金は、23年4月に16年ぶりとなる改定を行ったものの、経営的には、4年目の26年度で赤字決算に転落し、27年度は、赤字予算を余儀なくされました。

その間、料金業務に係る包括委託の導入など、経費削減や収入確保といった企業努力を行ってきましたが、水需要は、長期化している景気低迷や、環境・節水に対する市民、企業の意識や取組みにより大きく落ち込み、給水収益は、「財政計画」に見込んだ収入額を大幅に下回ることとなり、今後も、この状況が続くものと予測されます。

一方、こうした状況にあっても、全国の水道事業体と比較して遅れている水道施設の耐震化をはじめ、老朽化が進む水道施設を計画的・効率的に更新するための財源確保が不可欠です。

私たちは、安定した経営基盤のもと、計画的に施設整備を進めていくことで、ライフラインを扱う事業体としての使命を果たし、この水道を次世代に確実に引き継いでいかなければなりません。

つきましては、将来を見据えた、望ましい「水道料金のあり方」について、ご検討くださるようお願いいたします。